

理工学部

学部基礎情報

<p>【理念・目的】</p> <p>理工学部は法政大学建学の精神「自由と進歩」「進取の気象」を重んじ、この建学の精神にもとづき理工学分野における広範な教育・研究活動を実践し、優れた研究成果を社会に還元するとともに有為な人材を世に送り出すことを基本理念とする。</p> <p>この理念を実現するため理工学部は理工学主要分野において時代をリードする高度な研究活動を強力に展開・推進するとともに、教育面から、時代の先端技術に常に対応できる専門基盤技術を身につけ、高度な「ものづくり」に携わることができる人材、持続可能な社会の発展に貢献できる創造性豊かで幅広い教養と国際性を身につけた自立性のある技術者・研究者を育成することを活動の目的とする。</p> <p>ここで言う「ものづくり」とは社会的ニーズから出発し、その分析、必要とされるテクノロジーの研究・開発、成果の評価実施というエンジニアリングのプロセス全体を象徴的に現わしたものであり、組織、システム構築等「しくみづくり」を包含する。真に独創的な「ものづくり」にはエンジニアリング「工」のためのテクノロジーに習熟するとともに真理の探究を目指す「理」の深い素養が必要との認識から、科学的探究を実践する視点と洞察力を持った人材の育成をめざす。</p>
<p>【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的（教育目標）】※学則別表(11)</p> <p>本学の「自由と進歩」の建学精神に基づき、理工学分野における基礎的かつ広範的な教育活動を学際的に実践するとともに、グローバル時代をリードする高度な知的研究活動を強力に展開・推進し、優れた理工学分野の新技術や研究成果を持続可能な地球社会の発展に貢献できる自律的な技術者・研究者を育成することを理工学部の教育理念とする。</p> <p>グローバル時代における理工学分野の優秀な人材として、高度な「ものづくり」能力、創造性豊かで幅広い教養と国際性を身につけた自律性のある技術者・研究者を育成するために、理工学部では下記の教育目標を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野における十分な問題発見・解決能力を身につけさせるとともに新分野の創造を担うことも視野に入れ、時代をリードする先端技術及びその基礎を体系的に習得させる。 2. 境界領域分野の修得や学生の視点に立った学びの多様化に対応すべく、学部横断的な教育を実践する。 3. 社会のグローバル化に対応すべく語学教育の充実、教養教育の充実、さらに異文化理解等広い意味で学生の国際性を涵養し、地球規模で活躍できる社会性豊かな人材を育成する。 <p>加えて、各学科では理工学分野に関わる以下の専門的能力を有する学生をそれぞれ育成する。</p> <p><機械工学科></p> <p>ロボット、医療福祉、環境・エネルギー、航空宇宙などの専門技術者や研究者、そして機械工学の知識と技術を修得した航空パイロットを育成する。</p> <p><電気電子工学科></p> <p>電気エネルギー、マイクロ・ナノエレクトロニクス、回路デザイン、通信システム及び知能ロボットなどの分野で、先端基盤技術や高度な応用技術を開発推進できる人材を育成する。</p> <p><応用情報工学科></p> <p>人間環境情報、社会情報、情報ネットワーク、生体情報、ユビキタス情報及び基礎情報などの分野において、これからの情報産業でキーパーソンとなる技術者や研究者を育成する。</p> <p><経営システム工学科></p> <p>数理システム、企業システム、社会システム及び生産システムなどの分野において、経営を数理的に理解し、新企画を生み出せるマネジメント・エンジニアを育成する。</p> <p><創生科学科></p> <p>科学的な考え方と問題解決法を修得し、その手法を理系・文系の枠組みを超えて、物質・自然・人間・知能などあらゆるフィールドで展開し、あらゆる分野の問題解決に活用できる力をもった人材を育成する。</p>
<p>【ディプロマ・ポリシー】</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

理工学部の教育目標に従い、以下の能力及び人間的、社会的規範を持った人材を育成する。卒業所要単位を修得した学生はこれらの能力について基準を満たすと認め学位を授与する。

1. 専門分野の体系的学識を持ち、優れた問題発見・解決能力を有するとともに変化の速い先端技術に自律的に柔軟に対応可能な専門性を有する。
2. 専門分野の学識に加え学部教育で総合的に培われた基礎・基盤学問分野の素養をもとに新たな分野の開拓・創生に挑戦する創造的姿勢を有する。
3. 専門分野において外国語によるコミュニケーションが可能であるとともに異文化を良く理解し、グローバルに活躍できる国際性を有する。
4. 技術と社会のかかわりを深く意識し、高い倫理観を持って持続可能な社会構築にむけリーダーシップを発揮し貢献できる豊かな人間性を有する。

【カリキュラム・ポリシー】

理工学部の教育目標・ディプロマ・ポリシーに従った教育を実施するため、下記の方針に従って教育課程を編成する。

1. 時代のニーズに対応したコース設定により履修を体系化させ、社会の要請に応える質の高い教育を実施する。
2. 少人数のゼミ教育のなかで先端的な実験・研究への取り組みを行うことにより高度な専門性と独創性を身につけさせる。
3. 学びの多様性、学際分野の学びに対応するため、学部横断的教育プログラムを設ける。
4. 自然法則に感動を覚える基礎実験、参加型学習（PBL）等により高い動機づけを行う。
5. インターンシップ等のキャリア教育により実務能力と社会人としての倫理観を育成する。
6. 外国語による論文作成法や口頭発表等の実用的なコミュニケーション能力の涵養をめざし、能力別、少人数教育、スタディアブロード（SA）等を実施する。
7. 自然科学系の基礎科目（数学、物理）について基礎学力が不足する学生に対しリメディアル教育を充実させる。

【アドミッション・ポリシー】

理工学部では、以下のような人材を受け入れる。

1. 入学後の理工学分野の修学に必要な基礎学力を備えている。
2. 入学後の修学に必要な言語能力とグローバルな意識を有する。
3. 理工学分野に関心をもち科学技術を社会に生かす意欲を有する。
4. 社会的適応性を持ち、自発性、自由な発想力を有する。

下記のように多様な入試経路を設け異なる背景をもって入学した多様な資質を持つ学生が互いに啓発し合い、相互に切磋琢磨する教育環境を提供する。

- 一般選抜（学部・学科に重要な基礎学力のレベルの高い学生を選抜する）
- T日程および英語外部試験利用入試（出願資格型）（全国から主要科目の基礎学力を重視し学生を選抜する）
- 大学入学共通テスト利用入試（バランスのとれた学力を有する学生を全国から集めることを目的とし、基礎学力に注目した選抜を行う）
- 指定校推薦入試（豊かな自発性、指導性、自由な発想力を重視して指定する高校から優秀な学生を受け入れる）
- 付属校推薦入試（高大連携により特色ある教育の実践を目指し意欲のある付属校生を受け入れる）
- 帰国生入試・外国人留学生入試（国際性を身につけた学生を受け入れる）
- スポーツ推薦入試（学業とスポーツを両立できる優れた人材を受け入れる）

なお、いずれの経路の入学生にも高校で履修する理系科目及び英語について、入学時十分な基礎的素養を持つことが要求される。また、障がいのある学生についても可能な限り受け入れる方針である。

【定員管理の状況】

定員充足率(2017～2021年度)(各年度5月1日現在)

年度	入学定員	入学者数	入学定員充足率	収容定員	在籍学生数	収容定員充足率
2017	553	593	1.07	2,212	2,388	1.08
2018	553	574	1.04	2,212	2,330	1.05
2019	553	537	0.97	2,212	2,332	1.05

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

2020	553	541	0.98	2,212	2,320	1.05
2021	565	563	1.00	2,224	2,277	1.02
5年平均			1.01			1.05

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	改善課題	是正勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20 以上	1.25 以上
上記以外の分野	1.25 以上	1.30 以上

【定員未充足の場合】

提言	改善課題	是正勧告
すべての分野共通	0.9 未満	0.8 未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上	1.10 以上	1.10 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上

【求める教員像および教員組織の編成方針】(2018年度自己点検・評価報告書より転記しています)

求める教員像：理工学部の理念・目標を達成するため理工学部の教員は各自の専門分野をリードする高い見識と研究能力を有するとともに教育の質保証を実現するため教育に対する熱意と優れた教育力を併せ持つことが求められる。この教員像は全ての理工学部教員に等しく要求されるものであり、この教員像に合致する質の高い教員を確保することはリーディングユニバーシティ-たらんとする法政大学全体のビジョン実現に不可欠の要素である。

教員組織の編成方針：各学科の主要分野に対して必要にして十分な数の教員を配置することを原則とする。学科主要分野の設定及び教員組織の編成は中長期計画にそって学部全体の十分な合意のもとに進める。学部横断的な共通基礎、教養分野の教育組織については全学的な学士課程再編成の方針に沿った形で小金井キャンパス全体の合意の上で構築する。

【専任教員数および年齢構成一覧】

2021年度専任教員数一覧(2021年5月1日現在)

教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任 教員数	うち教授数
55	14	3	0	72	45	24

専任教員1人あたりの学生数(2021年5月1日現在)：31.6人

年齢構成一覧(2021年5月1日現在)

年度\年齢	61歳～70歳	51歳～60歳	41歳～50歳	31歳～40歳	30歳以下
2021	24	23	16	8	1
	33.34%	31.95%	22.23%	11.12%	1.39%

I 2021年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2021年度大学評価結果総評】(参考)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

理工学部では2019年度に行われたカリキュラム改定後の活動として、継続して学生の学習成果の把握や適切性の検討が行われている。カリキュラムの流れや体系を可視化するとともに、コース制を設けて履修モデルを提示することによる学びの体系化、入学時プレースメントテスト結果による要学力補強学生に対するリメディアル科目履修の推奨、オフィスアワーを利用した履修指導など学習成果向上のための取り組みが継続して行われていることは評価できる。一方で、高学年学生に対しては、各教員による少人数のゼミや卒研指導にゆだねられている部分が多く、学部として向かうべき方向の徹底や具体的な達成度の把握が十分な精度で行われているかの点検が課題になる。学生の学習成果の把握はGPAを中心に行われているが、学科間でのばらつきの影響評価が欠かせないことから、学科間でのばらつきに影響されない新しい指標の導入も検討されるべきであろう。年度目標の達成指標に「情報の蓄積や共有」といった記述が目立ち、指標データの収集・蓄積に終始しているように見える。蓄積された指標などがどのように活用されたのか、PDCAのActionの見える化を達成するためにどのように改善していくのかを示していく必要がある。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

卒業研究については、指導教員を含む複数の教員の前で発表会を開催するなど、複数の教員で評価することにより、少人数のゼミに委ねたことによる偏りなどの問題を軽減するような仕組みとなっている。

GPAの学科間の偏りについては、平均値を用いて学科間の違いを補正するなどの試みも検討しているものの、学部全体で承認を取れるような指標の導入には至っておらず、現在も検討を続けている。

蓄積されたデータの活用については、付属校・入試制度検討委員会等において分析し、指定校推薦枠の設定や、入試制度の改善に努め、それによって入学した学生のデータを用いて再び検討することでPDCAサイクルが回る仕組みを構築した。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

卒業研究においては、指導教員を含む複数の教員で評価を行うことにより偏りを軽減している。GPAの学科間での偏りについては、学部全体でオーソライズされる指標の導入に至っていないが、検討が続けられているとのことなので、今後の改善に期待したい。蓄積されたデータの活用について、付属校・入試制度検討委員会等における分析、指定校推薦枠の設定、入試制度の改善、入学した学生のデータによる再検討によるPDCAサイクルの仕組みが構築されている点は評価できる。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

1.1①学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。2018年度1.1②に対応

はい

1.1②理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度1.1③に対応

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

執行部会議及び教授会において、継続的・組織的なチェックを行っている。年度末には質保証委員会にて年度目標及び達成指標に基づく評価を実施している。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

1.2①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。2018年度1.2①に対応

はい

1.2②学部（学科）の理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。2018年度1.2②に対応

はい

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・学生向けには、理工学部生のための履修の手引きにて公開している。 ・理工学部のHPにポリシーを掲載するための特設サイトを設置し、社会に対して公開している。 <p>(http://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/policy/index.html)</p>

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし

【理念・目的の評価】

学部および学科の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて適切に設定され、執行部会議、教授会、質保証委員会にて検証されている。また、学則又はこれに準ずる規則等に明示され、教職員及び学生に周知されるとともに、社会に対して公表されている。ポリシーはホームページ上で公表されている。また、研究開発型の教育に力を入れていることは評価できる。

2 内部質保証

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

2.1①質保証委員会は適切に活動していますか。2018年度2.1①に対応

はい
<p>【2021年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科から選出された委員により内部質保証委員会を構成し、運用を行っている。 ・2021年度については、コロナ禍のため、年度末にメール審議およびオンライン会議を併用して開催し、自己点検シート of 各項目について確認を行った。

2.1②質保証委員会等の内部質保証推進組織は、COVID-19への対応・対策の措置を講じるにあたってどのような役割を果たしましたか。新規

※取り組みの概要を記入。
オンライン環境の整備状況や、メンタル面をはじめとする学生へのサポート状況などについて十分に機能しているか確認を行った。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
2021年度自己点検年度末報告書

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
質保証委員会の運用にあたりオンライン環境を積極的に活用した。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

ださい。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし

【内部質保証の評価】

質保証委員会がメール審議およびオンライン会議にて開催され、自己点検シートの各項目の確認などをオンライン環境下で効果的に行っていることは評価できる。COVID-19 への対応・対策の措置を講じるにあたっては、オンライン環境の整備状況や、メンタル面をはじめとする学生へのサポート状況の確認も行われており、適切に活動している。

3 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

3.1①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。2018年度3.1①に対応

はい

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

3.2①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。2018年度3.2①に対応

はい

3.2②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。2018年度3.2②に対応

はい

【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。

- ・学生向けには、理工学部生のための履修の手引にて公開している。
- ・理工学部の教育目標及び三つのポリシーについては、Webページに掲載して社会に対して公開している。
(<http://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/policy/index.html>)
- ・カリキュラムマップ、カリキュラムツリーについてもWebページにて公開している。
(<https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/curriculum/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54>)

3.2③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。

2018年度3.2③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

質保証委員会、執行部会議及び教授会において、年度目標及び達成指標に基づく評価を実施し、併せて、改善点を明確にすることにより、継続的・組織的なチェックを行っている。

- ・学科ごとのカリキュラムマップ、カリキュラムツリーの作成と公開
- ・学科ごとにラーニングサポーター活動報告の集計
- ・学部FD・質保証委員または学部専任教員による兼任教員担当科目の授業参観を実施
- ・GPA制度を活用し、学科ごとに学力不振者への個別の対応を継続的にしている

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

理工学部教授会資料

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.3①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。2021

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

年度 1.1①に対応

S : さらに改善することができた

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

- ・理工学部の教育目標及び三つのポリシーについては、Webページに掲載して社会に対して公開している。
- ・カリキュラムマップ、カリキュラムツリーについてもWebページにて公開している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・上記の教育課程の編成・実施方針に基づき、体系化され配置された科目に対し、学部として適切な教員を選任し、各課程に相応しい教育内容を提供している。
- ・2023年度に実施予定の大幅なカリキュラム改定に向けての検討を実施し、2023年度のカリキュラム案を作成した。今年度はさらに精査を行いカリキュラムを確定させる予定である。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・カリキュラムマップ、カリキュラムツリーについてもWebページにて公開している。

(<https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/curriculum/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54>)

3.3②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。2021年度 1.1②に対応

S : さらに改善することができた

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

教育課程の編成・実施方針に基づき、機械、電気電子、応用情報、経営システムの各学科の専門教育では、コース制を設け教育課程を体系化している。さらに、コースや境界領域で選択科目の履修モデルを設け体系的な学びを可能としている。一部の学科では、コースごとにカリキュラムツリーを作成している。創生科学科ではコース制は設けていないが、4つの学習フィールドを設定し、理工学部教育課程編成・実施方針に基づき有機的なつながりを理解する能力、多様な領域へ適用できる能力の育成等、時代の要請に合った教育課程を体系的に編成している。

学科ごとにカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成し順次性・体系性を確認するとともに、可視化を行っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・編入学の実施に向けて、高専などから3年次編入を受け入れた際のシミュレーションを行い実施可能性を検証した。この結果を2023年度に予定されているカリキュラム変更にも盛り込むことで、編入生の教育に対しても効果的なカリキュラムを実現できる予定である。

・卒論をはじめとする通年科目の半期化について検討を行い、通年科目を半期の2つの科目として分割することで、留学などのプログラムをより効率よく組み込めるようなカリキュラムを検討した。この結果についても2023年度に予定されているカリ変にも盛り込む予定である。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし。

3.3③幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。2021年度 1.1③

に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた

※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

建学の理念を踏まえ、豊かな人間性に支えられた自由な思考能力を育成するための幅広いカリキュラムを用意し、さらに学びの多様化に対応すべく他学科科目の履修も可能としている。また、英語科目、教養科目（人文・社会・自然科学系、スポーツ健康科学系、選択語学系、リテラシー系）、理系教養科目（数学系、理科系）に大別し体系化している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き（HoppiiのHONDANA、1年生には冊子体も提供）

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・理工学部の教育課程の特色の web 紹介 <https://www.hosei.ac.jp/riko/shokai/tokushoku/>

3.3④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。2021年度 1.1④に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

・初年次教育は教養科目の中で主に実施し、また付属校と特色ある高大連携プログラムを検討・実施している。特に2021年度は国際高校の高大連携科目「大学の学問にふれる」に対して講師を派遣し、授業を実施した。また付属校推薦入試、指定校推薦入試、およびスポーツ推薦入試の進学予定者に入学前のweb学習プログラム（以下、入学前教育と称す）を設け、受講を課している。これに加えて、理工学部新入生全員に対し、数学・理科におけるプレースメントテスト、英語についてはTOEICテストを実施し、それらの結果を用いて学力補強の必要性が認められる新入生に対してリメディアル科目（入門数学、入門物理学）の履修・受講推奨を、また英語については能力別クラス分けを行っている。

・一部の学科では1年次必修のコンピュータリテラシー科目にて、小金井図書館による利用方法の講義を1コマ行っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き（HoppiiのHONDANA、1年生には冊子体も提供）
- ・入学前教育の実施報告（例年、実施年度の翌年度の6月に公表予定）

3.3⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。2021年度 1.1⑤に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

・2010年度から国際化に対応するためのSA(Study Abroad)プログラムを継続的に実施している(2020年度、2021年度はコロナ禍のため実施取りやめ)。SAについては英語能力向上も企図した奨学金制度がある。

・小金井キャンパスにおいてグローバルオープン科目を開設している。

・留学生については、留学生ガイダンスや留学生歓迎会を例年行っている。例外的に2020年度はコロナ禍のため実施できなかったが、なお2021年度は、オンラインイベントとして、2022年度は対面・オンラインの併用イベントとして実施した。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料
- ・理工学部生のための履修の手引き（HoppiiのHONDANA、1年生には冊子体も提供）
- ・小金井事務部学務課グローバル担当とのメール（2021年度留学生ガイダンス実施関連）

3.3⑥学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。2021年度 1.1⑥に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

キャリア教育では、3,4年次に対してインターンシップを積極的に実施している。また、一部のPBLにおいて、年度によってばらつきはあるが、他大学や企業と連携して実施したことも過去にある。多くのゼミ活動においては、企業や大学との共同研究の参加、学会等で発表を通じて、実社会での活動を行っている。さらに、一部のゼミにおいては、チームで研究を行うことにより、コミュニケーション能力を養っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き (Hoppii の HONDANA、1年生には冊子体も提供)
- ・理系学部研究室ガイド

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

3.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。2021年度1.2①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・学科別ガイダンスで履修の手引きを配布している (2020年度からウェブ版も公開)。
- ・学科主任や実験・実習、演習担当教員による個別試問を含めた十分な履修指導を行っている。
- ・各学科においてオフィスアワーを周知し、学生の履修相談に対応している。
- ・低学年 (1、2年生) に対しては、クラス担任による個別の履修指導を行っている。
- ・下級生に対する上級生の成績優秀者によるチューター制度を以前から設けている。本制度は 2019 年度以降、全学のラーニングサポーター制度として取り込まれ、継続的に実施している。
- ・一部学科では、1年生に対して少人数グループによるプレゼミ制度を設けてきめ細かい指導を行っている。
- ・3年次 (春学期もしくは秋学期)、4年次では、全学生のゼミ配属が行われ、少人数かつ緻密な指導を行っている。
- ・コロナ禍対応として、新入生の履修登録ケア・不安解消・安否確認を目的としたオンラインベースの指導、必要に応じて学生相談室への接続等を行っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き (hoppii の HONDANA、1年生には冊子体も提供)
- ・理工学部教授会資料

3.4②学生の学習指導を適切に行っていますか。2021年度1.2②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

- ・重要な科目については講義に加え演習を設け習熟度を上げている。
- ・科目によってはスキル向上のため、少人数クラスとし必修科目としている。
- ・1年次から科学実験、物理学実験、化学実験、生物学実験、2年生以上においては少人数グループによる専門実験、ゼミ実験、PBL等を充実させ専門分野のセンスを養っている。コロナ禍での実験科目の運用については教員側の動画作成等、学習資料を充実させる方向で実施した。
- ・オフィスアワーなどの種々の機会も併用し、個別の学習指導もしている。
- ・専門科目の実験については、一部の学科で学生ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個人ごとに理解度をチェックし密な指導を行っている。
- ・3年次 (春学期もしくは秋学期)、4年次では、全学生をゼミに配属し、少人数かつ密な指導を行っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き (hoppii の HONDANA、1年生には冊子体も提供)
- ・各学科ガイダンス資料

3.4③学生の学習時間 (予習・復習) を確保するための方策を行なっていますか。2021年度1.2③に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間を確保する目的で履修登録科目の履修制限を実施している（原則として春・秋学期の各 30 単位かつ通年 49 単位）。ただし、優秀な学生に対する学びの機会を確保するため、2 年次以降は GPA が 3.0 以上の学生については通年 49 単位の履修上限を 60 単位に変更している。 ・実験については、毎週レポートの提出を課し、予習・復習時間が平均化するようにしている。 ・シラバスに予習復習時間を記述し、学生に自覚を促している。 ・ゼミ活動においては、学生に実験や勉学のための滞在スペースを与え、学校にて勉学を行う環境を整えている。 <p>※2020 年度以降については、新型コロナウイルス禍対応のため、Hoppii などを使い、オンラインで同様の対応が可能となるよう最大限の配慮を行っている。</p>
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・理工学部生のための履修の手引き（Hoppii の HONDANA、1 年生には冊子体も提供） ・ウェブシラバス (http://syllabus.hosei.ac.jp) ・各学科ガイダンス資料

3.4④1 年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行なっていますか。2018 年度 3.4④に対応

はい
【履修登録単位数の上限設定】※1 年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。
<p>学習時間を確保する目的で履修登録科目の履修上限を設定している（原則として春・秋学期の各 30 単位かつ通年 49 単位）。</p>
【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。
<p>ただし、優秀な学生に対する学びの機会を確保するため、2 年次以降は GPA が 3.0 以上の学生については通年 49 単位の履修上限を 60 単位に変更している。</p>
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・理工学部生のための履修の手引き（Hoppii の HONDANA、1 年生には冊子体も提供）

3.4⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。2021 年度 1.2④に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
【具体的な科目名及び授業形態・内容等】※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。
<ul style="list-style-type: none"> ・学生自身で問題を発見し、その解決を考える力をつけるため、PBL を必修として、「主体的な学び」を視野に入れた授業形態を導入している。 ・実社会での体験を通じて学ぶインターンシップ科目を設定し、研究・技術者としてのリーダーシップ能力等の育成とその充実も目指している。 ・専門科目の実験については、一部の学科において学生ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個別に理解度をチェックし緻密な指導を行っている。 ・3 年次（春学期もしくは秋学期）、4 年次では、全学生がゼミに配属され、少人数かつ緻密な指導を行っている。 ・一部の学科のゼミ活動においては、企業との共同研究や学会発表を行うことにより、身に着けた知識を実践的に役立てている。 ・一部の学科を除き全教員によるオムニバス形式による学科ごとの専門分野の全体を理解するための必修科目を用意している。 ・一部の学科では複数のゲストスピーカーによる実践的知識と経験を授ける授業を行っている。 <p>※新型コロナウイルスへの対応のため、一部、オンラインで実施。</p>
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・理工学部生のための履修の手引き (Hoppii の HONDANA、1 年生には冊子体も提供)

3. 4⑥それぞれの授業形態 (講義、語学、演習・実験等) に即して、1 授業あたりの学生数が配慮されていますか。2021 年度

1. 2⑤に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた

※どのような配慮が行われているかを記入。

・それぞれの授業形態に応じて、講義、語学、演習・実験等において、1 授業あたりの学生数が配慮されている。プログラミングなどの必修科目については過剰な人数にならないように 2 クラスとしている。特に会話形式の必修語学授業、実験装置の制約に関する演習・実験科目等で 1 クラスの学生数の上限を概ね設けている。

・卒業研究等のゼミ科目においては 10 人前後となるように考慮している。

・留級者、休学者及び退学者の情報を学科または学部執行部の会議で把握している。成績不振の学生に個別で学科主任または担当教員から対応を行っている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部生のための履修の手引き (Hoppii の HONDANA、1 年生には冊子体も提供)

・理工学部教授会資料 (成績不振者対応関連)

3. 4⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。2018 年度 3. 4⑦に対応

はい

【検証体制及び方法】※箇条書きで記入 (取組例：執行部 (〇〇委員会) による全シラバスチェック等)。

・適切なシラバスに基づく教育を実施するため、Web シラバスの校正・確認を教員に求め、翌年度のシラバスチェックを実施している。

・作成したシラバスは作成者以外の教員がクロスチェックして品質を高めている。

・共通科目である数学については、線形代数と微積分について統一シラバスによる教育を実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部生のための履修の手引き

・理工学部教授会資料

3. 4⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。2018 年度 3. 4⑧に対応

はい

【検証体制及び方法】※箇条書きで記入 (取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等)。

・授業がシラバス通りに行われているかの検証について、授業相互参観の組織的な実施や授業改善アンケートによって状況把握を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部教授会資料

3. 4⑨通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果についても教えてください。2021 年度

1. 2⑥に対応

※取り組みの概要を記入。

・実験科目のオンライン教育に関して、器具・装置等を使った教材動画を教員らが協力の上作成し、受講生にはそれを視聴させてポイントを理解させた上で、実験データを仮想的に提供して分析・レポートを書かせるという方式など、できるだけ工夫の下で実施した。動画により器具操作を詳しく見ることができるといった効果もあった。

・一部の授業をハイフレックス形式で実施し、対面授業の機会とオンラインでの学びの継続を両立させた。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

・対面定期試験が実施できず、レポート提出等による成績評価を行う必要のあることを想定し、12段階の成績評価を必ずしも必須としないことを学部として決定し実施した。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部教授会資料

3.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

3.5①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。2021年度1.3①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

【確認体制及び方法】※箇条書きで記入。

- ・成績の評価方法、評価基準については Web シラバスに明記し厳格な運用を行っている。
- ・成績評価に関しては GP 及び GPA、場合により GPT を算出している。
- ・成績評価について全体のフィードバックを行い評価基準の共通認識を高めている。
- ・成績公表後一定期間、学生から成績を問い合わせられる仕組みを実施し、教員と学生の意識を一致させている。
- ・授業がシラバス通りに行われているかの検証について、授業相互参観の組織的な実施や授業改善アンケートによってある程度の状況把握を行っている。
- ・卒業研究については、卒論中間発表や卒論発表会を実施することにより、複数の教員により単位認定の判断を行っている。また、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付けている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部教授会資料

・Web シラバス (<http://syllabus.hosei.ac.jp>)

3.5②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。2021年度1.3②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組みの概要を記入。

- ・平常時は定期試験、レポート、平常点などによって、総合的かつ厳格に成績評価を行っている。また、成績発表後の一定期間中に、学生による成績評価の調査申請制度を設定・実施し、教員と学生の意識を一致させている。
- ・一部の学科では、専門科目の実験については、学生ひとりひとりに対してすべての実験項目で試問を行い個別に理解度を把握している。
- ・3年次（春学期もしくは秋学期）、4年次では、全学生がゼミに配属され、担当教員が日常的に個別に指導等を行い正確な成績を評価している。
- ・卒業研究については、卒論中間発表や卒論発表会・審査会（学科により名称等が異なる）を実施することにより、複数の教員により単位認定の判断を行っている。一部学科では、不十分であると判断された場合の再審査会も設けている。
- ・卒業研究については、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付け、全教員が参照できるようにしている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部教授会資料

・理工学部生のための履修の手引き（Hoppii の HONDANA、1年生には冊子体も提供）

3.5③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。2021年度1.3③に対応

はい

【データの把握主体・把握方法、データの種類等】※箇条書きで記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

- ・各学科に就職担当を置いている。
 - ・各学科とキャリアセンターとが連携しながら把握している。
 - ・就職・進学情報は大学院専攻主任会議でも共有している。
 - ・各学科でも企業訪問を受け付け、状況の把握に努めるとともに、学生に対する紹介などを行っている。
 - ・3、4年次での全学生を対象として少人数ゼミによる教育の中で、就職活動についても指導、情報交換を行っている。
- 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
- ・理工学部教授会資料

3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

3.6①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。2021年度1.4①に対応

はい

【データの把握主体・把握方法、データの種類等】※箇条書きで記入。

- ・学生の学習成果を測定するため GPA の学科別分布を取り分析している。
- ・進級、留級状況は学科教室会議ならびに学部教授会で把握し、教授会メンバーが自学科・学部全体のデータを閲覧・分析・可視化することができるようにデスクトップ上に配置した。
- ・英語力については入学年度4月と12月、および2年次12月に TOEIC テストを行い学習効果の検証を行っている。これにより少人数教育と能力別クラス編成で大きな教育効果を得ている。
- ・新入生に対する成績分布も科目に依るがある程度の把握が可能となっている。これはプレースメントテスト（数学・理科）や TOEIC の結果をフィードバックし、リメディアル教育等に生かしていることに繋がっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料、執行部会議資料

3.6②学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。2021年度1.4②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組みの概要を記入。

以下について、指標の設定は一部を除いて基本的に得点であるが、特記事項等で把握することもある。

- ・入学段階での学生の基礎学力を測るための指標として、各種入学試験における成績、調査書等の記載内容、面接結果等から、理系科目および英語力について十分な基礎的素養を持つことの測定をしている。また特に英語力については入学年度4月と12月、および2年次12月に TOEIC テストを行い学習効果の検証を行っている。
- ・新入生に対しては、プレースメントテストの結果をフィードバックし、成績により個別にリメディアル科目の受講を促している。
- ・一部の学科の専門科目の実験については、個人個人に試問を行い一人ひとりの理解状況を把握している。
- ・試験の成績のみでなく、研究成果の発表等を学習成果の一つの指標としている学科もある（PBL）。
- ・卒業研究について、すべての学科で発表会（審査会）を行っているが、一部の学科では学科教員全員参加の評価の場で、学習成果に不足が見られる学生に対して再発表を課して、充実を図っている。
- ・3、4年次における全学生履修の少人数ゼミによる日々の教育の中で、学習成果や研究成果を正確に把握している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部生のための履修の手引き（Hoppii の HONDANA、1年生には冊子体も提供）
- ・理工学部執行部会議資料、教授会資料

3.6③学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。2021年度1.4③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用を行っている。 ・学生の学習成果を測定するため GPA や分布、必修科目の不合格者統計を取り分析している。 ・進級、留級状況は学科教室会議ならびに学部教授会で把握している。 ・英語力については入学年度4月と12月、および2年次12月に TOEIC テストを行い学習効果の検証を行っている。これにより少人数教育と能力別クラス編成で大きな教育効果を得ている。 ・新入生に対しては、プレースメントテストの結果をフィードバックし、リメディアル教育等に生かしている。 ・3、4年次での全員の少人数ゼミによる日々の教育の中で、学習成果や研究成果（学会発表等）を正確に把握している。 ・卒業研究については、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付け、全教員が参照できるようにしている。 <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部執行部会議資料、教授会資料、学科教室会議資料

3.6④学習成果を可視化していますか。2021年度1.4④に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績に関する基本統計データをグラフや表などの形で可視化している。 ・各種分析法を適切に施して得られたデータの可視化については、学部執行部で検討し執行部会議等で情報共有を行っている。 ・付属校推薦入試、指定校推薦入試、スポーツ推薦入試等での入学予定者については入学前にオンライン学習を課しており、進捗状況や得点等を可視化し把握している。 ・プレースメントテストについては点数データを把握し、本人へのフィードバックおよびリメディアル教育に活用している。 ・卒業研究については、卒業研究の結果としての卒業論文の提出を義務付け、全教員が参照できるようにしている。 <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工学部執行部会議資料、教授会資料

3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

3.7①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2021年度1.5①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレースメントテスト結果の集計（2020年度はコロナ禍により見送り、2021年度は実施済） ・GPA の入試方式別分布の解析 ・TOEIC スコアの集計解析 ・教室会議、執行部会議、教授会にフィードバックする体制の構築および教室会議での学科毎の測定と対策の検討 <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

- ・理工学部教授会資料
- ・理工学部生のための履修の手引き (Hoppii の HONDANA、1年生には冊子体も提供)
- ・デスクネット上の個人情報削除後の GPA データ、留級率データ

3.7②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。2021年度1.5②に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた

【利用方法】※箇条書きで記入。

- ・学生による授業改善アンケートを各教員のシラバスに反映させ、フィードバックしている。
- ・授業改善アンケートは記名式にして回答の信憑性を向上させるようにしている (ただし、教員には個人名は公表されない)

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・シラバスチェック資料

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

- ・教育課程・学習成果についての必要な事項は的確に実施されており、PDCA サイクルが回っている。
- ・学部内委員会である、FD 委員会、カリキュラム委員会にて現状把握と分析、さらに対策案の検討を行っている。
- ・旧カリキュラム・2019年度スタートの新カリキュラムでの留級率の推移の計測を継続している。
- ・入学経路別の新生の初年度末累積 GPA のデータ・各学年の留級率データを蓄積し、学科主任等、教員に対して閲覧環境を提供している。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画 (既に実施している場合にはその進捗状況も含めて) をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

- ・教員による授業相互参観は、学科、実施年度により実施の程度にばらつきがある。
- ・脱コロナに向けた検討が必要。

【教育課程・学習成果の評価】

<①方針の設定に関すること (3.1~3.2) >

学部および学科として修得すべき学習成果、卒業要件を明示した学位授与方針が適切に設定されており、学生に向けて、「理工学部生のための履修の手引」にて周知されている。専門科目と学位授与方針の相関関係を示すカリキュラムマップと、学位授与方針を達成するために必要な授業科目の流れ及び授業科目間の系統性を示したカリキュラムツリーが学科ごとに作成され、ホームページにて周知されている点は高く評価できる。質保証委員会、執行部会議および教授会において、これらのカリキュラムマップとカリキュラムツリーの作成の他、ラーニングサポータ活動報告の集計、授業参観、学力不振者への個別の対応などが意欲的に行われ、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と連関性の検証が行われている。

<②教育課程・教育内容に関すること (3.3) >

各学科にコースや学習フィールドを設定し、教育の順次性・体系性を詳細に明示するカリキュラムマップとカリキュラムツリーを作成し、教育課程と学習内容を可視化している点は高く評価できる。他学科科目の履修を可能とするとともに、教養課程を英語科目、教養科目 (人文・社会・自然科学系、スポーツ健康科学系、選択語学系、リテラシー系)、理

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた、B: 改善することができなかった。」を意味する。

系教養科目（数学系、理科系）に大別し、学びの多様化を図っている。初年次教育としては、入学後に数学・理科のプレースメントテストを実施し、必要に応じてリメディアル教育を実施している。また、英語の TOEIC 試験を実施し、能力別クラス編成を行っている。付属校の入学生に対しては高大連携プログラムを実施している。国際性を涵養するための教育としては、スタディアブロード、グローバルオープン科目が提供されている。キャリア教育としては、3、4年次にインターンシップが積極的に実施され、実社会での体験を図っている。特に、大学院進学予定者の4年次でのインターンシップは研究の幅を広げる観点から意義あるものであり、評価できる。ゼミ活動における企業や他大学との共同研究への参加、チームでの研究、学会等で発表が実社会での活動となっている点も評価できる。

<③教育方法に関すること (3.4) >

履修指導は、学科主任、実験・実習、演習担当教員、低学年（1、2年生）におけるクラス担任、3～4年次におけるゼミ担当教員などによって適切に行われ、上級生によるチューター制度（ラーニングサポーター制度）も活用されている。3～4年次のゼミ（10人前後）、複数クラス、スキル向上のための少人数クラスなどの適切な学生数が設定されており、重要科目における講義に加えられた演習、PBLによる「主体的な学び」などのそれぞれの授業に適した学習指導が行われている。学習時間を確保する目的で履修登録科目数の制限、実験におけるレポート作成時間の平均化も適切な方策として評価できる。また、ゼミ活動のスペースを提供し、学内に滞在して勉学を行える環境が整えられている点は高く評価できる。授業がシラバスに沿って行われているかの検証は、授業相互参観と授業評価アンケートによって行われている。コロナ禍のオンライン授業での実験科目の実施については、仮想的な実験データの提供、動画による器具操作の説明など、さまざまな工夫を行っていた点は注目に値する。

<④学習成果・教育改善に関すること (3.5～3.7) >

評価方法、評価基準をシラバスに明記し、GP、GPA、GPTによる成績評価と単位認定を行っている。特に、卒業研究について、発表会の実施により複数の教員による単位認定の判断を行っている点、学生による成績評価の調査申請制度を設け、共有している点は厳格な成績評価を行うための方策として評価できる。就職・進学状況は各学科の就職担当がキャリアセンターと連携して把握し、大学院専攻主任会議でも共有されている。教育成果の検証を学部・学科ごとに定期的に行っており、GPAの学科別分布、進級、留級状況の把握、プレースメントテスト（数学、理科）とTOEICテスト（英語）のリメディアル教育と英語教育へのフィードバック、専門科目の実験や3～4年次のゼミにおける個別指導などにより、分野の特性に応じた学習成果を測定し、把握・評価しているのは適切である。特に、全教員が参照できる卒業論文の制作により卒業研究の成果を可視化している点は高く評価できる。学生による授業改善アンケートは記名式とする（教員には個人名は公表されない）ことで回答の信憑性を向上させ、結果を各教員にフィードバックし、シラバスへの反映を図っている点は適切である。

4 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

4.1①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。2018

年度 4.1①に対応

はい

4.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

4.2①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。新規

※取り組み概要を記入。

募集にあたっては、入学案内に加え、学部のパンフレットおよびHPを作成し、受け入れ方針を広く公表している。選抜にあたっては、数学、物理、英語の各入試工房に対して、学部より選任された委員が複数名参加し、入試問題の傾向や難易度に対して、学部からの意見を反映させている。特別入試においても、各学科から委員を選出し、公平な選抜が行われるよう配慮するとともに、学部長および教授会主任が入試委員として全体のチェックを行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学入学案内
- ・理工学部パンフレット

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

- ・理工学部ホームページ
https://www.hosei.ac.jp/riko/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54
- ・理工学部教授会資料

4.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

4.3①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。2018年度4.2①に対応

はい

※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

問題となる定員超過・未充足があった場合は、クラス増や実験器具増設及び関連委員会での検討を踏まえ、適宜対応している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料

4.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

4.4①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2018年度4.3①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※検証体制及び検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

- ・スポーツ推薦入試に理科の履修条件を追加して入学後の修学困難に対応している。
- ・2018年度より英語外部試験利用入試を導入している。
- ・外国人留学生入試における募集人数枠を明確にし、定員の充足に向けて検討を行っている。
- ・執行部会議、教授会において継続的に検証を行っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

・経路別合格者数、入学者数、入学者の学力などの年次データを共有している。経路別の入学者数及び学力分布を分析し、入試制度改革を検討し、学生の質の向上をめざしている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

特になし。

【学生の受け入れの評価】

数学、物理、英語の各入試工房には学部より複数名の委員が参加し学部の内容・水準を反映させている。また、特別入試には各学科から委員が選出され、公平な選抜が行われるとともに、学部長および教授会主任が入試委員として全体のチ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

チェックを行っている。問題となる定員超過・未充足があった場合には、クラス増や実験器具増設を行うとともに、関連委員会での検討を踏まえて適切に対応している。スポーツ推薦入試、英語外部試験利用入試、外国人留学生入試のあり方については、執行部会議、教授会において継続的な検証が行われている。特に、スポーツ推薦入試において理科を履修条件に追加することで入学後の修学困難に対応した点は評価に値する。

5 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

5.1①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。2018年度5.1①に対応

はい

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・教員採用と昇格の基準は、法令の要件を踏まえて、下記の教授会規程教員資格内規に定められている。
- ・理工学部教員審査内規
- ・理工学部教授、准教授及び専任講師資格内規
- ・教員資格についてのガイドライン
- ・学部任期付教員規程
- ・助教規程
- ・教務助手に関する規定

5.1②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。2018年度5.1②に対応

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・理工学部執行部は学部長、教授会主任、教授会副主任及び各学科主任で構成されている。
- ・学部内の基幹委員会（一部は生命科学部・情報科学部との共同運営委員会）として、人事委員会、安全対策委員会、FD委員会、質保証委員会、カリキュラム委員会、付属校・入試制度検討委員会、広報委員会、研究推進委員会、国際化委員会、教職課程運営委員会、研究倫理審査委員会等が設置されている。
- ・それぞれの委員会は当該委員会の設置趣旨に基づき、理工学部または小金井にある生命科学部・情報科学部との共通問題に関する検討や新しい展開に関する企画等を行っている。
- ・委員会運営については、委員の互選による委員長責任体制であるが、最終的な運営責任は教授会または執行部にある。

【明示方法】※箇条書きで記入。

- ・委員会構成員については本人承諾はもちろんのこと教授会にて全体に明示している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会規程第8条
- ・理工学部教授会資料

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

5.2①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。2018年度5.2①に対応

はい

※教員像及び教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

理工学部では、教授、准教授及び専任講師資格内規に基づき、各学科人事推薦委員会、学部人事委員会及び教授会において、教員任用に関する検討・審議を行っている。なお、教養系科目の担当教員の選考は学部執行部、該当教員の所属学科及び小金井リベラルアーツセンターと連携して行い、教養教育（基礎理系科目：数学、物理）に加えて専門科目や卒業研究も担当できることなど教養教育と専門教育の接続に対応でき、また入試問題を担当し学部運営に貢献できる人材を求める形で採用している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

- ・理工学部教員審査内規
- ・理工学部教授、准教授及び専任講師資格内規
- ・教員資格についてのガイドライン
- ・理工学部教授会規程

5.2②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。2018年度5.2②に対応

はい

※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

理工学部では、大学院理工学研究科との教育・研究上の連携を積極的に推進している。理工学部教員資格についてのガイドラインでは、教授は専門分野において顕著な研究業績を有し、博士後期課程の研究指導及び講義担当適格者であることが明示されている。また、理工学部各学科と大学院理工学研究科各専攻は同一の教員組織で運営されており、教育研究は強い連携が前提となっている。例えば、研究室単位で学部生の卒業研究や大学院生の特別研究等を共同で実施することや、ゼミ発表会等も共同で行われるケースも多い。全学生が参加するゼミは大学院生と学部生が一体となり実施している。また、大学院修士課程の教育は学部教育の延長線上にあるとの共通認識の下で、学部専門課程でのコース（専門分野）別教育と対応する大学院での研究教育の活性化を目指し、学部4年生に対する大学院修士課程科目の先取り履修制度が実施されており、理工学部で開講している教職課程関連科目などは科目履修制度によって大学院生にも開かれている。加えて、大学院生は理工学部の実験・演習等の実技科目、PBL・ゼミナール等の少人数教育授業や卒業研究等に対する教育補助スタッフ（TA）として、学部生の指導を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・教員資格についてのガイドライン
- ・理工学部教授会議事録

5.2③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。2018年度5.2③に対応

はい

【特記事項】※ない場合は「特になし」と記入。

過去、一部で年齢構成の偏りが見られたが、ここ数年の人事計画においては、任用後の教授会構成員の年齢構成を考慮に入れ、教員組織の年齢分布の適正化を図っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・各種統計資料

5.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

5.3①各種規程は整備されていますか。2018年度5.3①に対応

はい

【根拠資料】※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・教員審査内規
- ・学部教授、准教授及び専任講師資格内規
- ・教員資格ガイドライン

5.3②規程の運用は適切に行われていますか。2018年度5.3②に対応

はい

【募集・任免・昇格のプロセス】※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することも可。

・上記根拠資料の通り、推薦委員会の設置、人事委員会の設置をおこない、所定の手順にて承認を得るプロセスにて最終的に教授会にて承認され、適正に運用されている。

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

5.4①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。2021年度2.1①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。 ・FD活動については執行部が主導のもと各学科が実行主体となり推進している。
【2021年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。 ・全学科で授業相互参観を行っている。学部全体として公開している科目数は650科目であり、兼任講師の科目についても含まれている。複数教員が協力して行っている科目についても、授業参観の要素があるものについて把握した。コロナ禍中において授業動画を収録している場合もあり、これらも授業参観の対象とした。 ・研究活動状況は全学の研究者データベースを利用して公表し、教員の当該年度の研究業績や学会活動を掲載している。 ・FD推進センターの各種イベントを所属教員に周知している。 ・理工学部FD委員会の検討結果は教授会で報告し議論を行い意識の共有を図っている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・理工学部教授会資料

5.4②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。2021年度2.1②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。 ・相互の研究活動を把握し、共同研究の芽を育てるなどを目的として、2019年度から小金井3学部で開催を開始した小金井研究交流セミナーに参加し発表やディスカッションを行っている。コロナ禍の影響により、2020年度以降はオンラインで実施している。 ・お互いの研究成果を客観的に把握できるようにするために、研究者データベースの更新を促している。 ・学会等での受賞、表彰について、教授会にて紹介している。 ・平常時では、地域向けの公開イベントを開催している。また、スポーツ交流イベントに参加している。2020年度以降はコロナ禍のため未実施となっている。 ・理系同窓会と連携し、企業、教員、学生との交流イベントを開催し、連携を促進した（小金井祭での研究室紹介）。ただし2020年度以降はコロナ禍のため未実施となっている。 ・理系同窓会連携委員会を設置しており、卒業生が就職した企業との連携の活性化を図っている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・理工学部教授会資料 ・法政科学技術フォーラム案内 (https://www.hosei.ac.jp/scitech/) ・小金井祭での研究室紹介案内 (https://koganeisai.com/event/laboratory/)

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・教員による授業相互参観は年度毎の実施件数のばらつきはあるが確実に実施されている。 ・理工学部FD委員会を設置し状況の分析や対策を検討する体制が確立している。 ・理系同窓会との連携強化を図っている。 ・小金井3学部間で教員間の共同研究等の芽吹きを意図したイベント等を共同開催している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
<ul style="list-style-type: none"> 採用・昇格の基準等については、現在のガイドラインが主に工学系を専門とする教員を対象としたものであり、それ以外の分野を対象としたガイドラインの整備も必要である。 F D活動については、教職員の生活に支障のでないよう包括的な実施体制の見直しと、効率化による無駄な業務の削減が必要である。

【教員・教員組織の評価】

<p>教員の募集・採用・昇格において、法令の要件を踏まえた教授会規程教員資格内規を定め、求める能力・資質等を明示している。採用と昇格は、学科内の推薦委員会、学部の人事委員会、教授会での審議・承認により適正に運用されている。特に、教養系科目の担当教員の選考において、関係部局と連携しながら、教養教育と専門教育の接続に対応できるとともに、入試問題を担当し学部運営に貢献できる人材を採用している点は高く評価できる。教育は、学部執行部の下に設置された各種の基幹委員会によって、カリキュラムに則して、組織的に実施されている。各学科と大学院の各専攻は同一の教員組織で運営されており、大学院と強く連携されている。学部4年生が大学院修士課程科目を先取りで履修できること、学部で開講している教職課程関連科目を大学院生が履修できること、大学院生が実験・演習や卒業研究等において教育補助スタッフ（TA）として学部生の指導を行っている点は評価できる。F D活動と社会貢献等の諸活動に関しては、授業相互参観の実施、研究者データベースの公表の他、理系同窓会との連携によるイベントの開催に意欲的に取り組んでいる点も評価できる。</p>
--

6 学生支援

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

6.1①卒業・卒業保留・留年者及び休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。2018年度6.1①に対応

はい
【データの把握主体・把握方法・データの種類等】※箇条書きで記入。
・教授会、執行部会議、学科教室会議及び専修会議等で、学部として組織的に把握している。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・理工学部教授会資料

6.1②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。2018年度6.1②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。
<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスによる説明、履修の手引きの配布を行っている。 ラーニングサポーター制度を導入し、上級生による下級生の修学支援を行っている。 3、4年次では、全学生がゼミに配属され、個人指導や少人数教育によりさまざまな相談に対応することにより、密に支援を行っている。 一部の学科では、専門科目の実験では、個人個人に試問を行い学習の支援を行うと共に、達成度を把握している。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・理工学部教授会資料、学科教室会議資料

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

6.1③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。2018年度6.1③に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

【成績不振学生への対応体制及び対応内容】※箇条書きで記入。

- ・低学年の成績不振学生には、成績が優秀な高学年の学生によるラーニングサポーター制度などによって対応し、その運営方法については教員のアンケート調査も実施し、検討も詳細に行われている。
- ・成績不振学生については個別にヒヤリングを行うなど状況把握と改善に努めている。
- ・基礎学力が劣った成績不振の学生に対して、リメディアル教育、補習授業による指導体制の強化も2015年度から実施され、教員による指導体制の強化も行いつつある。
- ・学習意欲不足などが原因の成績不振の学生には、カウンセリングの紹介やクラス担任による指導などで対処している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料

6.1④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。2018年度6.1④に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。

- ・理工学部として、積極的に外国人留学生の学習支援を行っている。外国人留学生のための日本語講座の開講、日本人学生によるチューター制度の導入をしている。
- ・3、4年次では、留学生も全員ゼミに配属され、個人指導や少人数教育によりさまざまな相談に対応することにより、密に支援を行っている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料

6.1⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。2018年度6.1⑤に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。

- ・学生相談室の紹介を積極的に行っている。
- ・成績不振学生については、ヒヤリングを行い、相談にのるとともにラーニングサポーターや相談窓口の紹介を行っている。
- ・3、4年では学部の全学生がゼミに配属され、ゼミにて担当教員により個別、少人数を行っている。そのなかで、生活相談も行っている。
- ・一部の学科では、1、2年次でプレゼミを実施し、少人数での教育、相談に対応している。
- ・学年の担任を決め、学生の相談に対応しやすくしている。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

内容
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎情報については概ね収集できている。 ・I I S Tの設置にともない、留学生対応を強化している。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
コロナ禍で渡日できていない留学生もおり、脱コロナに向けてきめ細かい支援が必要である。

【学生支援の評価】

卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況は、教授会、学科教室会議等で、学部・学科として組織的に把握されている。基礎データを学科と学部の両面により共有できている点は評価できる。修学支援の取り組みは、ガイダンス、3～4年次のゼミによる他、ラーニングサポーター制度も導入されている。成績不振学生については、個別に状況を把握し、指導している。外国人留学生には、日本語講座の開講、日本人学生によるチューター制度により修学を支援している。学生の生活相談には、3～4年次のゼミ、1～2年次のプレゼミ、学年担任が組織的に対応している。I I S T（総合理工学インスティテュート）設置にともない、留学生対応について研究科とも連携して対応していること、日本人学生の国際化への意識向上に貢献していることは評価できる。

7 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

7.1①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフ、授業支援アシスタント、ラーニングサポーター等を配置することによる、教員の教育研究活動を支援する体制は整備されていますか。2018年度7.1①に
対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
<p>※教育研究支援体制の概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RA、TAについては、確実に運用し、演習科目や実験科目の指導において効果を挙げている。 ・技術スタッフについては、2018年度から、教務助手制度を導入し、学科による管理を強化するとともに、実験等の教育支援の充実を図っている。 ・コロナ禍に対応する授業支援アシスタント制度の拡充を機会に同制度の活用を始め、オンライン授業のサポートなどを依頼している。 <p>【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>理工学部教授会資料</p>

7.1②学部（学科）として、学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。新規

<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の教室以外に、オンライン受講専用の教室やオープンスペースを確保し、学生が安心して受講できる環境を整えている。 ・学生の罹患が判明した場合の連絡フローを独自に構築し、関係部局が迅速に連携を取り感染拡大を防止する対策を取っている。 <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・理工学部教授会資料

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

・これまでの、技術スタッフとして特任教育技術員と技術嘱託の制度があったが、新たに教務助手制度を 2018 年度から導入し、より、的確な教育支援を行えるようにした。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

特になし

【教育研究等環境の評価】

ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA) は、演習科目や実験科目の指導において効果を挙げている。2018 年度より導入された教務助手制度により、実験等の教育支援の充実が図られている点は高く評価できる。COVID-19 への対応・対策については、オンライン受講専用の教室やオープンスペースの確保、学生の罹患が判明した場合の連絡フローの構築が適切に行われている。

8 社会貢献・社会連携

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

8.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。2018 年度 8.1①に
対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

・小金井キャンパスとして地域連携の取り組みを続けており、一般向けの講演会の実施、小金井際での研究室紹介などを実施している。
・企業との受託・共同研究を多く行い、外部資金獲得、研究の活発化を行っている。
・企業、地方自治体、同窓会組織などとの連携を目的とした「法政大学理系コンソーシアム」の設立に向けて準備をおこなっている。
・法政科学技術フォーラムを開催し、研究成果を社会に還元すべく情報発信を行っている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・理工学部教授会資料

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S」：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

企業、地方自治体などとの連携を強化すべく、法政大学の研究成果を積極的に情報発信しており、また、企業との共同研究なども堅調に推移している。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

企業など外部組織との連携を行うにあたり、学内での承認手続きが極めて煩雑で、迅速な対応を行うことが難しい。

【社会貢献・社会連携の評価】

一般向け講演会の実施、大学祭での研究室紹介、法政科学技術フォーラムなどを実施している。また、企業との受託・共同研究により外部資金の獲得、研究の活発化を行っている。企業、地方自治体、同窓会組織などとの連携を目的とした「法政大学理系コンソーシアム」の設立に向けて準備をおこなっている点には期待したい。

9 大学運営・財務

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

9.1①教授会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。2018年度9.1①に対応

はい

※概要を記入。

- ・理工学部執行部として、学部長、主任、副主任を配置している。
- ・教授会を設け、原則月一回開催している。
- ・学科には、学科主任を設けている。
- ・学部執行部としては、学部長、教授会主任、教授会副主任、学科主任を構成員としている。
- ・理工学部教授会規程およびその他内規、細則、規程を適切に整備している。
- ・定常委員会に加え、必要に応じて学内委員会を設置することにより円滑な運営を行なっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・理工学部教授会資料、理工学部教授会規程、理工学部執行部運営細則、その他内規、細則、規程

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

- ・必要な規程、内規等は適切に整備されており、厳格に運用されている。
- ・規程にしたがい、教授会および教授会執行部が設けられ適切に運営されている。
- ・変更が必要な場合は随時所定の手続きを経て改正が行われている。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

- ・学部間、部局間を越えて効率よく事業を実施することが困難である。

【大学運営・財務の評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

教授会規程およびその他の内規、細則、規程は適切に整備されている。規定等に改変が必要な場合は、適切な手続きにより改正が行われている。学部執行部、各学科主任、各種委員会の任命と設置と、原則月一回開催の教授会により円滑な学部運営が行なわれている。

III 2021 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証	
1	中期目標	内部質保証について運用体制を構築し PDCA サイクルを確立する。	
	年度目標	・学習成果に関連するデータの活用法について検討する。	
	達成指標	・いくつかの学習成果の指標の選定と PDCA サイクルへの取り込みの適切性。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	・極端な成績不振学生の GPA 閾値(0.1)を学部として設定し(1月定例教授会承認)、今後の指導に役立てることとした。 ・この指標の学修指導に関する PDCA サイクルへの取り込みが今後なされることとなる見込みである。
		改善策	・他の指標の選定(計測が比較的容易なものなどの視点も重要)を今後も進めたい。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		極端な成績不振学生の GPA の指標を学部として 0.1 と設定し、今後の学生指導に役立てる方針が示された。よって、A 評価は妥当であると判断できる。	
改善のための提言	今回決められた GPA 指標の活用法を検討し、PDCA サイクルの確立を目指す。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	・カリキュラムポリシーに基づき最適なカリキュラムとする。 ・理念・目的に合った教育内容であるかの確認体制を確立する。	
	年度目標	・改訂から3年目となる2019年度カリキュラムの、カリキュラムポリシーとの整合性について点検する。	
	達成指標	・点検を行ったカリキュラム適切性の、次の新カリキュラム改定作業への参考情報として蓄積されること。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	・現行(2019)カリキュラムが学部のカリキュラムポリシー(HPにて公表済み)と整合していることは設計時に確認されているが、学年進行による留級率への影響を調べたところ、留級率の上昇など、特段の問題は見られないことが確認できた。
		改善策	・本学の IR システムにも学部単位での参考となる情報があるため、それらの利用も考慮する。
		質保証委員会による点検・評価	
所見		現行カリキュラムのカリキュラムポリシーとの整合性が確認された。また、留年率の上昇など特段の問題の見られないことから、現行カリキュラムの妥当性が確認された。よって、A 評価は妥当であると判断できる。	
改善のための提言	引き続き現行カリキュラムを精査し、新カリキュラム策定作業を進める。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
3	中期目標	・留年、休学、退学者数を適正にする。 ・教員による相互チェックによる品質の向上を強化する。	
	年度目標	・現行カリキュラムにおける教育課程と学修成果の関係性を、留年、休学、退学者数などに着目し引き続き把握する。 ・教員による相互授業参観について、授業の収録動画等の利用も引き続き行う。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

		・新任教員（兼任・専任）の授業の相互参観についても学科の判断に基づいて実施を進める。
	達成指標	・測定結果を可視化、把握し学部内等で共有をしていること。 ・2021年度に新任となる兼任教員担当科目での相互授業参観の実施件数など。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	・留級率や進級退学者数などについては、教授会資料にて状況を構成員と共有している（2月定例教授会にて確認の見込み）。 ・兼任教員担当科目での相互授業参観の実施数は10件となった。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	留級率や進級退学者数などの情報共有が行われており、A評価は妥当と判断できる。また、コロナ禍にもかかわらず兼任教員担当科目での相互授業参観が実施されたことも評価に値する。
	改善のための提言	オンライン相互授業参観など、効率的に相互参観を行える体制を構築する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標	ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーに基づくカリキュラムを実現する。
	年度目標	・改訂から3年目となる現行カリキュラムについて3年次生までの学習成果について把握する。
	達成指標	・必修科目の単位習得率等を計測し、学科、執行部レベルで共有すること。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	・デスクネットにおいて今年度末における「理工学部_専門必修修得資料」を教授会構成員に共有した。特段の問題がある数値は見られなかった。なお各数値の詳細は解釈は学科で検討頂くこととしたい。一方で、データの取りまとめが煩雑であることも判明した。
	改善策	・他の指標の選定（計測が比較的容易なものなどの視点も重要）を今後も進めたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	必修科目の単位修得率など専門必修修得資料が教授会構成員に共有された。よって、A評価は妥当であると考えられる。
	改善のための提言	必修科目の単位習得率の簡易な調査方法の確立を目指す。
No	評価基準	学生の受け入れ
5	中期目標	アドミッションポリシーに基づく入学経路を最適化し、より優秀な学生を受け入れる。
	年度目標	・アドミッションポリシーの下で編入学による学生受け入れの可能性について検討する。
	達成指標	・検討の中間報告、結果等が教授会等で共有されること。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	・2月度の臨時教授会にて人件費改定の代替措置の中に編入学生の受け入れも学部の基本的考え方として盛り込む形が承認され、共有された。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	編入学生の受入を基本的な考え方として考慮することが承認された。よって、A評価は妥当であると考えられる。
	改善のための提言	編入学生の受入に対して、対応可能な入試制度の検討をはじめめる。
No	評価基準	教員・教員組織
6	中期目標	・年齢構成を適正化する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

		・教育研究支援体制を確立する。
	年度目標	・退職教員の後任人事に際しては、適正な採用を行いつつ、年齢構成等の改善を図る。 ・人的な研究支援体制の増強策の検討を進める。
	達成指標	・新規採用時に年齢等をも考慮し、バランスが改善されること。 ・研究支援体制検討の中間報告や結果などが教授会等で共有されること。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	・4名の新任人事が決し、平均年齢は47.5歳である。これは現況平均年齢を下回っていることから改善の方向となった。 ・研究支援体制の施策にかかわる部分としては、「小金井キャンパスの安全な研究・教育環境を検討するタスクフォース」の最終報告を11月度定例教授会の小金井企画調整会議報告の一部として共有し、今後の検討の継続について確認した。
	改善策	・研究支援体制の施策に対しては今後も各方面からの情報をも参考にして検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	新任教員の平均年齢が現況の平均年齢を下回り、年齢構成のバランスが改善された。よって、A評価は妥当であると考えられる。また、「小金井キャンパスの安全な研究・教育環境を検討するタスクフォース」の最終報告を情報共有できたことも評価できる。
	改善のための提言	引き続き教員の年齢構成を勘案しながら新任人事を進める。
No	評価基準	学生支援
7	中期目標	・学生に対するサポート体制を充実させる。
	年度目標	・メンタル面に関するサポート策を検討する。
	達成指標	・サポート内容と実施成果の把握を学部内で共有できること。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	・小金井キャンパスにおける学生のメンタル面の支援活動について、心理カウンセラーの方を招いて4月23日17時より教授会懇談会の場で講演して頂き、教授会構成員で共有した。 ・FD委員会によるオフィスアワーに関するアンケート調査が行われ、デスクネッツ上で結果が共有されている。これには学生のメンタル面に関する項目も含まれている。
	改善策	・学生のメンタルヘルスに関する留意は今後も必要と考えられる。心理カウンセラーの人的資源に限りがあるため、補強を法人に依頼する必要について検討することが望ましい。
質保証委員会による点検・評価		
所見	学生のメンタル面の支援活動について、心理カウンセラーの方に教授会懇親会の場で講演していただき、情報共有できた。また、FD委員会によるオフィスアワーに関するアンケートでも、学生メンタル面に関する情報が共有された。よって、A評価は妥当であると考えられる。	
改善のための提言	心理カウンセラーの増員の必要性について検討する。	
No	評価基準	社会連携・社会貢献
8	中期目標	他大学、企業、地域との連携を活性化する。
	年度目標	・コロナ禍の状況に応じて、法政科学技術フォーラムへの出展に協力する。また、理系同窓会と連携したイベントの展開についても検討を行う。
	達成指標	・左記イベント等への出展数等を適正にしていること。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
	自己評価	A
	理由	・コロナ禍が継続する中でオンライン開催となり、教授会構成員より実施委員1名と動画

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

		<p>コンテンツの作成に1名、それぞれご協力頂いた。動画の公開も事務部による特設サイトの開設により実現できた。(https://www.hosei.ac.jp/scitech/)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小金井地区近隣住民とのスポーツイベントもキャンパス単位で企画されていた(12月度教授会の小金井企画調整会議報告)が、コロナ禍により中止となった(NPO法人小金井倶楽部と本学の親睦卓球大会)。 ・理系コンソーシアム設立準備委員会の設置が常務理事会から承認された旨、6月度定例教授会で報告した。本件は理系同窓会との連携プロジェクトを含んだものとなっており、検討が進められている。
	改善策	・地域との連携行事については今後も前向きに進める。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	オンラインではあるが法政科学技術フォーラムが実施され、特設サイトの開設により動画コンテンツが公開された。よって、A評価は妥当と考えられる。また、理系コンソーシアム設立準備委員会の設置が常務理事会から承認されたことも評価に値する。小金井地区近隣住民とのスポーツイベントがコロナ禍のため中止になったのは致し方ない。
	改善のための提言	法政科学技術フォーラムの充実を図る。また、理系コンソーシアム設立準備委員会での議論を開始しコンソーシアム設立を目指す。
<p>【重点目標】</p> <p>当学部では概ね、4年に一度の周期でカリキュラム改定を行っている。次のカリキュラムの検討に資することも見越し、現在の学習成果とカリキュラムの適切性を把握するとともに、編入学生の受け入れについて検討を開始する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>学習成果の定量的な把握(留級率、休学率、退学率、必修科目の単位修得率など)を引き続き収集、分析、可視化するなどを行い検討に利用する。また、編入学生を受け入れることとなった場合のカリキュラムの構成についても学部内カリキュラム委員会等で検討を行う。</p> <p>【年度目標達成状況総括】</p> <p>学習成果の定量的な把握に関するデータの取りまとめと情報共有についてはデスクネット上で教授会構成員に向けて随時行うようにしてきている。今年度は試みとして必修科目の単位修得状況についても把握することとし、小金井学務課の協力のもとデータ集約を行い、その結果を共有することができた。しかしながらこの指標の元となるデータは構造が複雑であり、多大な集約労力が必要であることも判明したため、今後は他の手法・指標を検討することが望まれる。なお、必修科目の単位修得状況については特段の問題は見られなかったが、今後の詳細な分析は各学科にお願いしたい。一方、編入学生の受け入れについては、次年度行う予定である2023カリキュラムの作成と連動することが望ましいとされ、また特に2年次編入を検討することについて、教授会でコンセンサスを得ることができた(2月度臨時教授会)。次年度への申し送り事項としたい。</p>		

【2021年度目標の達成状況に関する大学評価】

<p>全般に達成指標を明確な数値で示し、達成状況を的確に自己評価している。特に、教育課程・学習成果に関して、改訂された現行カリキュラムにおける留級率をチェックし、その妥当性を確認している点は高く評価できる。学生の受け入れについて、編入学による学生受け入れを検討を目標とし、教授会において基本的な考え方として承認された点は注目に値すると思われるので、今後の検討にも期待したい。</p>

IV 2022年度中期目標・年度目標

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	内部質保証について運用体制を見直し効率化を図る。
	年度目標	オンライン環境の利用を推進する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する会議等のオンライン化 ・申請書などの電子化 ・業務削減率50%
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
2	中期目標	国際化、多様化に対応したカリキュラムの検討と構築。KLACとの連携強化。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた。B:改善することができなかった。」を意味する。

	年度目標	2023 年度実施予定のカリ変に向けたカリキュラムの策定
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通年科目の半期化による留学対応 ・ 国際教養関連科目の開設 ・ SA プログラムの充実 ・ 教養教育カリキュラムの充実
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
3	中期目標	オンライン教育環境の活用
	年度目標	脱コロナを目指したオンライン授業と対面授業の併用
	達成指標	・ オンライン授業に適した科目の選定と、対面授業と遜色のない学習効果の実現
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
4	中期目標	ディプロマ・ポリシーの達成状況の確認とカリキュラム検討へのフィードバック。
	年度目標	コロナ禍における学習成果の確認
	達成指標	・ 卒業研究等の成果をもとにカリキュラムの適切性、ディプロマ・ポリシーの達成状況を確認
No	評価基準	学生の受け入れ
5	中期目標	編入学生の受け入れ態勢の構築
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 編入学試験の実施方法の検討 ・ 編入学に対応したカリキュラムの検討
	達成指標	・ 定員の数%程度の規模で編入生を受け入れる
No	評価基準	教員・教員組織
6	中期目標	年齢構成を適正化する。
	年度目標	退職教員の後任人事に際しては、適正な採用を行いつつ、年齢構成等の改善を図る。
	達成指標	・ 新規採用時に年齢等をも考慮し、バランスが改善されること。
No	評価基準	学生支援
7	中期目標	学生に対するサポート体制を充実させる。
	年度目標	脱コロナに向けた学習支援を行う
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科別ガイダンスの実施 ・ 学年担任によるサポート ・ ラーニングサポーターの活用 ・ 学生相談室へのつなぎと共同支援
No	評価基準	社会連携・社会貢献
8	中期目標	企業、自治体、同窓会等からなるコンソーシアムを設立し、連携を強化するとともに共同事業を推進する。
	年度目標	コロナ禍においても実施可能な事業から先行して実施する。
	達成指標	参加企業数 30 社程度、実施イベント数年間数件程度

【重点目標】

当学部では、概ね4年に一度の周期でカリキュラム改定を行っている。2022 年度は、そのカリキュラムを策定する年度となる。現在の学習成果とカリキュラムの適切性を把握するとともに、編入学生を日本のみならず海外の大学からも含めて、広く世界から受け入れが可能なカリキュラムを実現する。

【目標を達成するための施策等】

学習成果の定量的な把握（留級率、休学率、退学率、必修科目の単位修得率など）を引き続き行い検討に利用する。また、編入学生を受け入れた場合の履修シミュレーションや、編入学試験の方法など、受け入れ態勢やその後のサポート方法についても学部内委員会等で検討を行う。

【2022 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

学習成果を留級率、休学率、退学率、必修科目の単位修得率などによって定量的に可視化して把握し、共有をしている点は高く評価できる。概ね4年に一度の周期で行われているというカリキュラム改定への活用が期待できる。また、編入

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

学生の受け入れについて、カリキュラム委員会等での履修シミュレーション、編入学試験の方法、受け入れ態勢、サポート方法についての検討にも期待したい。

【大学評価総評】

2021年度中期目標・年度目標達成状況に関しては、内部質保証、教育課程・学習成果、学生の受け入れ、教員・教員組織、学生支援、社会貢献・社会連携の評価基準がほぼ達成されている。概ね4年に一度の周期でカリキュラムが改定されているが、2021年度は2019年度に改定されたカリキュラムの3年目にあたっていた。学習成果を定量的な検証するデータの取りまとめと情報共有について意欲的に取り組み、カリキュラムの適切性を確認している点は高く評価できる。その成果が新たなカリキュラムの改定にも生かされることを期待する。また、新カリキュラムが目標とする編入学生の国内外の大学からの広い受け入れの実現にはおおいに期待したい。各学科にコースや学習フィールドを設定し、教育の順次性・体系性を明示するカリキュラムマップとカリキュラムツリーを適切に作成し、教育課程と学習内容を可視化している点、高学年と大学院のゼミを一体とするなど学部を大学院と強く連携させ、ゼミ活動のスペースを提供することで学内に滞在して勉学を行える環境が整えられている点も高く評価できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。